

余野川ダム建設計画の中止を求める意見書

大阪府北摂の箕面市止々呂美地域は、昔から里山などの豊かな自然を育んできました。しかし今、かけがえのないその資源を台無しにする「水と緑の健康都市」開発が進められています。新御堂筋の先に続く箕面トンネル、止々呂美地域にインターのできる第二名神、余野川ダム建設の3つがこの開発に含まれ、とくに治水、利水の面で必要性がなく、環境をこわし、財政に大きくのしかかる余野川ダム建設計画は問題だと考え、その早急な見直しを求めるものです。

(1) 財政の問題

私たちが望もうが望まなかりうが、ダムを作るには私たちの税金が使われます。

箕面トンネル・・・813億円

ダム建設・・・・・・580億円

水と緑の健康都市・・・936億円

計 2329億円 ※この他にも諸々の費用がかかります。

不況だ、お金がない!と言われる今日、私たち市民はこのようなムダ使いを許すことができません。結局この計画で利益を得るのは一部の大手ゼネコンだけであり、これではいったい誰のための開発なのか、本末転倒です。

(2) 環境の問題

この地域には、希少野生動物であるオオタカやニホンジカ、ダマガエルなどがいます。昆虫の宝庫でもあります。また雑木林としてさまざまな植生が形成されています。しかし、ダムを作るとこれらの大事な財産をすべて失うことになってしまうのです。

コンクリートと緑、どちらを次世代に引き継ぎたいか。市民である私たちの思いは明確です。

(3) 利水の問題

ダムを作ると水道料金が上がるため、箕面市は余野川ダムからの水は使わないと言っています。またそのほかの地域でも水の需要は減ってきており、余野川ダムができてその水は余る可能性が大きいのです。つまり余野川ダムによる「利水」という目的はないというわけです。

(4) 治水の問題

余野川ダムは60年代の猪名川上流開発の際に計画されました。しかし、余野川は現在の状態になってから深刻な水害を引き起こしていません。

ダムを作るときに治水上重要な地点を基準としてそこにおける流量を表す「基本高水」

という考え方が使われます。この計画では余野川と合流する猪名川の基本高水を 3500t/秒と設定していますが、今までの最大流量は 1948 年の台風時の 1650t/秒で、二倍以上も高く設定されています。また余野川ダムは同流域にすでにある一庫ダムよりも大きいですが、洪水調節の効果はその 4 割しかなく、とても効率の悪いダムと言えます。

各地域の水害をなくすためには、コンクリートダムではなく総合的な治水対策への転換が重要です。河川の狭い区間を改修したり、流域貯留・遊水地・調整池を整備したり、流域の土地利用を見直したりすることが求められています。

以上、簡略に上げました財政、環境、利水、治水の四点の理由から、委員会報告では余野川ダム建設の中止を明記していただきたい旨をここに申し入れます。